

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字上の割2020-3		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町提出日	平成30年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JivovsoCd=2470301017-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 11 月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの生活を大切にすべく、個別ケアを日々心がけ、日頃の観察・気づき・工夫により安心でき笑顔あふれる生活を送っていただけるよう共に生活をする事を大切に思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は長年地域の理解・協力で総合物流企業として発展できたことを受け、13年前に地域貢献の一端として、広大な敷地内に管理の行届いた庭園をもつ素晴らしい環境の中に、2ユニットの事業所が開設された。開設以降、利用者と家族、スタッフに信頼の厚い管理者の下、スタッフの異動も少なく事業所内のコミュニケーションは大変良いことから、常に利用者の尊厳を意識し、その人らしい生活が送れるように支援している。又、看取りについては協力医との連携を得て、スタッフから看取りの支援(お世話)をさせて頂くことは、ごく自然なことでありがたいことだと聞かされ、スタッフの心のこもった温かみを感じ取られる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、その人らしい生活をしていただくことを大切に考えケアしている	リビングルームに掲げた事業所理念と共に、社は『誠心・意意』と地域社会と融合し、安心と信頼を感じてもらおう！里！とする等のモットーを全スタッフが共有し、利用者本位でその人らしい暮らしが出来るように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・中学校の運動会・文化祭に参加している。また、中学校の職場体験授業も受け入れている。介護専門学生の実習も受け入れしている	事業所の周辺に民家がなく、日常的な交流機会は少ないが、毎年秋に事業所で開催の『さつきの里交流会』は、ラーメン等屋台の出店もあり、利用者・家族・地域の方や子供達約200名の参加で盛大に開催し、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に参加していただいている地域の皆様に認知症の様々な症状や看取りについてのお話をさせていただき色々な意見交換をさせていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況報告・施設食事試食などをしていただき、ご意見、ご指導いただきサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解され、会議では事業所の近況報告後、参加者から多くの意見や情報が出され運営に活かす等、有意義な会議となっているが、過去2年間は年5回の開催に留まっている。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るため貴重な機会である。市や利用者家族等の参加も得ながら、身近なテーマで気軽に取組まれ、年6回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域・包括センター・相談員の方々に意見交換・情報交換していただき協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議の際情報交換している。事務的な事や急な相談事は、その都度市に出向き相談に応じてもらう等協力関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内から広くゆつくりとした芝生の日本庭園に自由に入出入りができます。安全の為、駐車場に続く門扉は施錠している。現在1名安全対策のため家族と話し合い、同意書をいただきベッド柵2点使用している	身体拘束による弊害については、管理者が内部研修と日常のケアの場やスタッフ会議で指導し、特に安心・安全でその人らしい暮らしと精神面においても拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体・職員、しっかり虐待防止についてしっかり努めている。管理者は現場に入り日頃の利用者様・職員の事をしっかり把握している。施設長・管理者・ケアマネ・フロア一長の連携・報告をしっかりとし虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の残存能力を生かし自立支援に努めている。成年後見制度の必要性があれば支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長・管理者が立合い、十分な説明をして、不安や疑問にしっかり対応させていただいている。解約の際の相談もしっかり対応させていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会の際には利用者様の生活の様子等を報告させていただく中で家族様の要望等を聞かせていただけるよう努めている。要望があればすぐ対応出来るようつとめている。玄関に意見箱設置や月1度の相談員に来所していただいている	家族には、毎月発行の『さつきだより』で事業所での暮らしの様子を報告し、面会時や介護計画更新時に意見や要望を聞き入れ、利用者個々のケアの向上と、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議には、本社役員・施設長出席し日頃の職員の意見・疑問・改善案等を書き出した物を議案にして会議を行う。管理者は職員とのコミュニケーションも大切に心がけ、職員の意見を聞き出しやすい環境作りに努めている	管理者はスタッフとのコミュニケーションを大切にすることで、朝夕のミーティング(申し送り)やスタッフ会議で意見・要望・アイデアを聞き入れ、職場の環境づくりに活かしている。又、利用者のケア向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与の際に施設長から勤務状態・評価の話しが個々にある。勤務表は職員の希望の休日を取り入れながら作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修に参加してもらっており、月1回会議で勉強する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小・中学校の運動会参加・応援に他の施設と一緒にいる機会がある。おたっしや広場作品展示会運営会議・各種研修参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人面談で思い・要望を伺い、生活歴・病歴等を把握し信頼関係を築けるよう努めその人らしい生活が出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は必ずご家族様との面会にて詳しく症状等伺い具体的な支援方法の説明と、入所直後は近況など詳しくお伝えし信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症症状の進行により入所希望されるため、他のサービスを勧める事例はないが、専門的立場から本人に合った支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり出来る事、出来ない事を把握し、お互い協力しながら洗濯物などを一緒に干したり、たたんだり、一緒に食事・お茶の時間を過ごすなど安心した日常生活が送れるように、信頼関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様面会時の際、職員・家族様の会話を大切に、面会しやすい環境作りを心がけ近況報告し、ご本人の気分転換をかねて、外出・外食等も協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会・文化祭・外食へ行ったり、地域の方を招いての交流会など開催している。携帯電話を持ってみえる方もいつでも連絡取れている。顔馴染みの方からの年賀状・絵はがき等も届き喜ばれている	利用者も高齢となり、知人や友人の面会は多く望めないが、誰でも気軽に面会出来るように心掛け、利用者の多くが馴染みである鈴鹿ハンターや馴染みの店舗へ買物や食事かに出掛ける等出来るだけ馴染みが継続出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションは困難な事が多くなってきたのが現状ではあるが、席等を考え工夫し、職員が仲を取り持ち、良い関係を築けるよう支援している。女性の輪に入れない男性利用者様には職員と会話をしたりして一人にならないよう日頃から気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は疎遠になる事が多いが、サービス終了後、数年経つが定期的に花を生けて届けてくださる家族様がみえる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より会話をもち、今の思い、意向の把握に努めている。利用者様症状により、見守りの中から楽しんでみえる事、苦手を感じている事、表情やしぐさ等で把握し暮らしの希望に添えるように努めている	利用者とのコミュニケーションを最も大切にし、日々の体調や表情、しぐさから思いや意向を察知し、思いや意向を把握した事は、申し送り簿に記録すると共に、ミーティング時(申し送り)に口頭で話しすることで、スタッフが共有出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報はもちろん、日常の会話の中で生活歴・習慣を把握し、その生活を損なわないよう、在宅での生活に近づけるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと共に表情・顔色・食事量・排泄・会話の様子なども観察し現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリング、毎月1度行っているサービス担当者会議にて、課題とケアの見直しを行っている。必要に応じ家族との話し合いを持ってプランに反映している	介護計画の見直しは、毎月のカンファレンスを兼ねたユニット会議で皆で話し合い、3ヶ月毎のモニタリングの結果と予め聞いてある家族の意向を反映し、定期的には3ヶ月毎に見直している。利用者の心身の状態に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変や細かな言動を日誌に記録するよう努め、朝・夕の申し送り・申し送りノートで共有している。状況変化には、その場で対策を検討するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調の変化、心情の変化に対応出来るよう様子観察し、体調変化に合わせて必要な対応を職員で話し合いケアに取り組んでいる。ご本人・ご家族の意向に沿って看取りも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内ではあるが、それぞれが得意とする事、出来る事を考え生きがいを持てるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設連携医の同意はしていただき、ご家族差様の希望される病院には受診していただいている。針治療・お灸・マッサージを希望される利用者様には専門の方に来ていただいている	利用者と家族の希望と同意で、全ての利用者は事業所の協力医がかかりつけ医となっている。協力医は月2回の往診・24時間・緊急時の対応が可能であり、適切な医療が受けられる。専門科の受診は家族同伴で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設連携医の24時間対応・月2回の往診がある。連携医には気づきや状態をしっかり伝え相談し適切な指示をいただき支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院側、家族との情報提供に努め、見舞いに出向き現状把握も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「重度化した場合の方針」について説明、理解していただいている。ご本人・ご家族様の意向に沿い主治医と連携をとり、スタッフ間で情報・状態を共有し、終末期を支援している	家族には、利用開始時に重度化・終末期の対応について説明している。終末期の状態になった時改めて看取り介護支援について説明し、家族の希望があれば、事業所としては協力医と連携し看取り介護をする方針であり、スタッフも看取り介護はごく自然な事と理解されていて、既に多くの見取り介護の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防学校の1日研修はスタッフは参加し、応急処置の訓練はうけている。事故・応急処置を実践で行ったスタッフによって様々な場面での指導をうけているが、瞬時に適切な対応が出来る職員ばかりではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練年に2回・防災訓練は年1回している。日中は近くの親会社に応援を依頼できる体制がある。災害時には近隣施設の協力も書面で交わしている	火災と地震を想定し、通報・初期消火・避難訓練を年3回実施している。2階のユニットは、利用者をおんぶや抱っこして非常階段を使って災害時本番並みの訓練となっている。水・食料等備蓄の備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全てに同じ表現・対応ではなく症状の違い・性別・性格の違いを踏まえたうえで、声の大きさ・話し方会話の内容を考えた対応心がけ、尊重する気持ちを考え対応している	利用者個々の人格を尊重し、プライバシーを害しない声掛け・言葉遣いに心掛けている。また、個人情報の取り扱い、トイレ誘導と排泄、入浴時の羞恥心に配慮した介助・見守りを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を話しかけやすいよう目線を同じにする事を心がけ、職員が忙しそうなる行動を謹む。会話はゆっくり返事を待ちながら、表情を穏やかに保つ。会話の難しい利用者様には普段から様子観察をしっかり行き表情・手振り等でいつもの違いに気づき思いがわかるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴にかかる時間・お昼寝・就寝時間も個々に違い、それぞれのペースに合わせている。体調・気持ちの変化を汲み取りその日その時に合わせて支援できるよう心がけている。テレビ番組も利用者様が自由に変えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・ブラッシング等は支援している。外出の際はいつもよりおしゃれな洋服を着て出かけられるよう支援している。メイクされる方の眉を書く支援もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み・トロミの加減・味付け等の工夫している。食べ物好き嫌い・食事制限のある方の工夫、外食・握り寿司・うなぎの出前などでおいしい食事を楽しんでいた。もやしの根切り、ごぼうのささがき、食器洗い・食器拭き・お盆拭きをしていただいている	昼食は併設のデイサービスの厨房に委託し、栄養士の献立で季節毎の食材を使った栄養バランスの取れた美味しい食事となっている。朝食・夕食は管理者が利用者の好みの献立で旬の食材で調理し、スタッフも一緒に楽しい食事となっている。又、時々寿司や鰻の外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食のバランス、食べ易いように工夫したり嫌いな食べ物は食材を変更し提供している。1日の水分量は個々にお茶の温度・量・時間なども個々に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日消毒洗浄させていただいている。食後は声かけ、見守りしながら歯磨きさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録し把握している。個々のトイレ誘導したり、センサーマット・ナースコールでの対応している。布パンツの方も自立維持が出来るよう支援している	日々の体調・しぐさ・表情から察知し、さり気ない声掛け誘導し、一部介助と見守りによりトイレ排泄が出来るよう、又、夜間もポータブルトイレを用意してある方もあるが、巡回時に様子を見て声掛けし、トイレ排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌・バイタル表で管理し、運動も毎日行っているが、運動・飲食の工夫では困難な方が多いため主治医指示の元、服薬にて排便コントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中が入浴時間となつてはいるが、利用者様の希望・体調等を大切に、決められた時間外でも個々のペースでゆっくり入浴していただけるよう努めている。1名の自立している方には、本人希望にそって入浴していただいている	希望があれば午前・午後を問わず毎日の入浴も可能であるが、現状は概ね週2回～3回、午前中希望の時間帯にゆっくり、ゆったり入浴を楽しんでいる。一般浴槽での入浴が困難な方には、併設のデイサービスの特浴が利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に入眠される時間はことなる、自立の方は好きな時間に休まれ、誘導が必要な方も希望にそって誘導している。いつも快適に休んでいただくよう、夕刻に居室温度を快適に設定し、シーツ等も清潔に整え、気持ちよく休んでいただく心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を理解し、症状の変化等を主治医に伝え、薬の増量・減量変更など検討し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみ・食器拭きなど役割を持っていただいている。裁縫の得意に縫い物をしていただく機会を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり希望に沿う事は難しい事もあるが、皆様の希望にそってお寿司やラーメンを食べに出かけたり、学校の運動会・文化祭にも参加し楽しませている。個人的に家族と出かけられる方もみえる	日常的には、天気が良ければ敷地内の広くて美しい日本庭園の散歩、玄関前のベンチでの外気浴や日向ぼっこ、鈴鹿ハンターへ福祉作品展の見学、季節毎にドライブを兼ねての花見(梅、桜、菖蒲、紅葉狩り等)と外食に出掛ける等多くの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金管理困難の利用者が多く、施設管理です。いつでもお金が使えるようには支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。聞こえの悪い方に対しては会話を取り持つなどの支援している。携帯電話を持ってみえる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の椅子は個々に合わせた椅子にしている。浴室は広すぎることなく1人で落ち着いて入浴できる広さになっている。壁面には月行事の思い出の写真・利用者様作品が飾られている。窓から見える山の景色からも季節を感じさせ光の調節も出来て心地よく過ごしていただけるよう工夫している	共用空間の全てがきれいで整理整頓出来ている。食堂兼リビングルームは大変広くて開放的であり、適度な照明と窓からの採光で心地よい居場所となっている。又、調査日の朝リビングルームの窓越しに見える初冠雪の鈴鹿山脈は絶景であり、常に季節の移り変わりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓からの山の景色がみえるフロアーには、ゆっくり座れるソファがあり好きな場所でくつろげるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時なるべく馴染みの物・家具等の持ち込みをお願いはしている。写真や思い思いの物で個々のその方らしい居室になっている	各居室ともきれいで整理整頓されている。持ち込みは何でも自由であり、テレビや使い慣れた家具、お好みの小物が持ち込まれ、壁や筆筒の上には、お好みの写真や小物が随所に飾られ、それぞれ居心地の良い部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内ポータブルトイレの位置など安全かつ自立できるよう工夫している。小柄な方のため足台など用意し一人ひとりの自立を支援している		